

薬連ハイライム

平成30年度診療報酬・調剤報酬改定

昨年12月18日、厚生労働大臣と財務大臣による折衝の結果、診療報酬及び薬価の改定について合意がなされた。

非常に厳しい医療保険財政の中、また、いわゆる医薬分業や調剤報酬に対する批判の声が巻き起こる状況の中で、医薬分業の意義や財政効果、医療経済実態調査結果、備蓄医薬品の金額等に関する資料を持参しながら、安倍総理を含め、必死のロビー活動を展開した。特に、公平な改定率（医科1.0：調剤0.3）の堅持については、個別のロビー活動のみならず、薬剤師問題議員懇談会の総会の開催を求め、多くの議員の理解を得る活動を展開した。

その結果、大臣合意により、診療報酬本体+0.55%となり、各科改定率は、医科+0.63%、歯科+0.69%、調剤+0.19%と決定された。何とか公平な改定を死守することができた。しかし、前回改定と同様に、大型門前薬局等に対する評価の適正化が行われることになり、国費60億円程度の別枠引き下げが行われることにな

った。加えて、薬価の引き下げ（国費ベース：通常改定▲1.36%、抜本改革改定▲0.29%）が行われることから、保険薬局経営への影響が懸念される。

2月7日、中央社会保険医療協議会から、具体的な改定点数が厚生労働大臣に答申された。改定される調剤報酬点数は、対物業務から対人業務にかかる評価へのシフトを促す内容となっている。具体的には、地域支援体制加算や服用薬剤調整支援料の新設、薬剤服用歴管理指導料、かかりつけ薬剤師指導料等の評価の充実等が図られる一方、対物業務である内服薬の調剤料については一部適正化がなされる。

また、かかりつけ薬剤師業務を月100件以上算定実績がある場合の調剤基本料の特例除外が廃止されるとともに、大型門前薬局の評価の対象拡大と同一敷地内薬局の評価の見直しが行われた。

調剤報酬に対しては引き続き厳しい状況が続くことが予想され、指摘されてきた内容に対し、第三者の理解を得られるための活動を継続していく必要がある。

もとゆき便り

通常国会の開会

自由民主党组织運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき

第196回通常国会は1月22日に招集され、開会式に続いて衆参両院の本会議において安倍首相の施政方針及び財政、外交、経済それぞれの担当大臣による政府4演説が行われました。

厚生労働省が、この通常国会に提出を予定している法案は8件あります。この中で最も国民の関心が高いのは、「働き方改革推進法案」ではないでしょうか。安倍首相は施政方針演説の最初に働き方改革を取り上げ、「子育て、介護など、様々な事情を抱える皆さん誰もが、意欲を持ち能力を発揮できる柔軟な労働制度とするため、雇用形態による不合理な待遇差を解消する、同一労働同一賃金の実現、長時間労働の慣行を解消する、罰則付きの時間外労働の制限など、戦後の労働基準法改正以来70年ぶりとなる、抜本的な改革を断行する」ことを表明しました。

このほか、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目指し、受動喫煙防止対策を徹底する」、「全ての食品事業者に、国際的なスタンダードに基づく衛生管

理を義務付け、美味しい日本の農水産物の世界展開を力強く後押しする」ことなど、首相が施政方針演説で示したとおり、望まない受動喫煙の防止を図るための「健康増進法改正案」や国際基準に即して事業者自らが重要工程管理等を行う衛生管理制度（HACCP）を導入する「食品衛生法改正案」などの提出も予定されています。

また、働き方改革と並んで政府の重要な政策として生産性革命について、企業が既存の規制にとらわれることなく、革新的なサービスやビジネスモデルにチャレンジできる、規制のサンドボックス制度の創設を盛り込んだ「生産性向上特別措置法案」や革新的なイノベーションに挑戦する企業への法人税負担の軽減を盛り込んだ「所得税法等改正案」も、経済産業省及び財務省から、それぞれ提出予定とされています。

次代を切り拓くため、来年度予算の早期成立並びに重要法案の一刻も早い成立を目指して、引き続き尽力して参りたいと思います。

藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会（下記アドレス）までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@m Fujii.jp

日本薬剤師会雑誌2月号に掲載した藤井もとゆき国会レポートについて、下記の誤りがございました。

- × 厚生労働省の一般会計予算総額も前年度当初予算比4389億円増の30兆6873億円となりました。
- × 厚生労働省の一般会計予算総額も前年度当初予算比4389億円増の31兆1262億円となりました。
- 医療の約11兆6260億円、年金の約11兆8079億円
- 年金の約11兆6260億円、医療の約11兆8079億円

訂正してお詫び申し上げます。